

オーストリア周遊と華麗なる都ウィーン 12 日間

ご旅行のご案内

2026 年 10 月 5 日（月）出発・12 日間 | インスブルック・ザルツブルク・ウィーン

1. 気候・服装・携行品について

■訪問都市の気候について（例年の平均最高・最低気温と月間降水量の目安です。）

都市名・標高	10 月平均最高気温	10 月平均最低気温	10 月降水量
インスブルック（約 580m）	16℃	5℃	74mm
ザルツブルク（約 430m）	15℃	6℃	78mm
ウィーン（約 200m）	14℃	8℃	46mm
東京（日本）	22℃	14℃	235mm

10 月の例年の目安です。標高の高い山岳部は、上記の都市より冷え込みます。

● **オーストリアの気候と服装の基本：** オーストリアは日本に比べて湿度が低く、同じ気温でも朝晩や日陰では涼しく感じられます。また、この旅行ではウィーンなどの平地から標高 2,000m を超える山岳地帯まで訪れるため、気温差に対応できる重ね着が基本となります。

● **10 月 5 日発（10 月上旬～中旬）の服装：** 平地でも日中は 15℃前後、朝晩は 5～10℃前後まで冷え込むことがあります。長袖シャツ、セーターやフリースなどに、ライトダウンや防風性のある上着を重ねられる服装がおすすめです。天候によっては東京の晩秋に近い寒さとなる場合があります。

● **【重要】フランツ・ヨーゼフス・ヘーエの防寒対策：** 日程 5 日目にはグロースグロックナー山岳道路を通り、標高約 2,369m のフランツ・ヨーゼフス・ヘーエ展望台を訪れます。平地が暖かい日でも、山上では気温が大きく下がり、強風などで体感温度がさらに低くなる場合があります。ライトダウンやフリース＋風を通しにくい上着をご用意ください。10 月出発では手袋や帽子などがあると安心です。

● **ペンケン山・シャーフベルクなど山岳観光時：** ペンケン山ではゴンドラなどを利用して山上へ上がり、約 1 時間のミニ・ハイキングを行います。また、シャーフベルクでは登山鉄道で標高約 1,782m まで上がります。山の天候は変わりやすいため、脱ぎ着しやすい上着と雨具をすぐに取り出せるようにしてお持ちください。

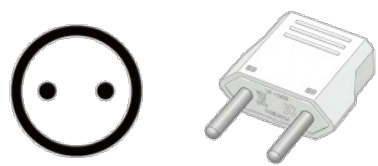
● **雨具について：** アルプス周辺では夏でもにわか雨や雷雨になることがあります。折りたたみ傘に加え、ペンケン山などの散策時にも使いやすいフード付きの軽量レインウェアがあると便利です。

- **履物について：** インスブルック、ザルツブルク、ウィーンなどでは石畳や坂道を歩く観光があります。また、ペンケン山では約1時間のミニ・ハイキングを予定していますので、靴底に滑り止めがあり、履き慣れたスニーカーやウォーキングシューズをご用意ください。本格的な登山靴までは必要ありません。
- **日差し対策：** 山岳地帯では平地より紫外線が強くなります。帽子、サングラス、日焼け止めなどをご用意ください。飲料水を携帯し、こまめに水分を補給してください。
- **その他の携行品：** 常備薬、リップクリームなどをご用意ください。スマートフォンやカメラ用のモバイルバッテリー・予備バッテリーなど リチウムイオン電池を使用した製品は、預け入れ荷物には入れず、機内持ち込み手荷物としてお持ちください。

2. 電圧・プラグの型について

■オーストリアの電圧とプラグ形状

国・地域名	電圧 / 周波数	プラグ（コンセント）の形状
オーストリア	230V / 50Hz	C・Fタイプ（丸型ピン2本）



Cタイプのプラグ形状

【重要：充電環境と変換プラグについて】日本のプラグ（Aタイプ：平型ピン2本）は、そのままでは使用できません。オーストリアでは丸型ピン2本の「Cタイプ」の変換プラグを日本から1〜2個ご持参ください。オーストリアではCタイプのほか、接地端子を備えたFタイプのコンセントも使用されていますが、スマートフォン、カメラなど一般的な旅行用電気製品の充電には、Cタイプの変換プラグを利用できる場合がほとんどです。※電圧は日本の100Vと異なり、230Vの高電圧です。スマートフォン、デジタルカメラ、パソコンなどの充電器で「INPUT：100V-240V、50/60Hz」と記載されている機器は、変圧器なしでご使用いただけます。日本国内専用の100V機器をご使用になる場合は、海外電圧対応製品または変圧器が必要です。

- **ホテル客室での充電について：** 各地のホテル客室にはコンセントがありますが、利用できる数や設置場所は客室によって異なります。スマートフォン、カメラ、イヤホンなど複数の機器を充電する場合は、複数のUSBポートを備えた海外電圧対応のUSB充電器をお持ちいただくと便利です。

● **ヘアドライヤー・ヘアアイロンについて：** ご宿泊ホテルには、原則として客室備え付けのヘアドライヤーがあります。日本国内専用のヘアドライヤーやヘアアイロンは、高電圧により故障や発熱の原因となるため使用できません。ご持参になる場合は、必ず「100V-240V、50/60Hz」の海外電圧対応製品であることをご確認ください。

3. 通貨・両替について

■ オーストリアの通貨と決済事情

国・地域名	現地通貨名	略称	補助通貨
オーストリア	ユーロ	EUR / €	1 ユーロ=100 セント

【重要：ユーロ現金とクレジットカードについて】 オーストリアではユーロ（EUR / €）を使用します。ホテル、レストラン、スーパーマーケットなどではクレジットカードを広く利用できますが、小さな商店、売店、公衆トイレなどでは現金が必要になる場合があります。5 ユーロ、10 ユーロ、20 ユーロ札を中心とした少額のユーロ現金を ご用意いただき、クレジットカードと併用するのがおすすめです。

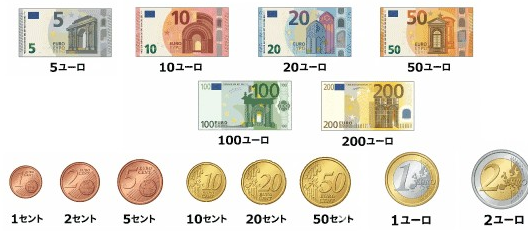
● **現金の両替について：** ユーロは日本国内の銀行や空港の両替所などでご用意いただけます。現地でも ATM からユーロを引き出すことができますが、カード会社や ATM によって手数料がかかる場合があります。必要な少額現金については、出発前に日本でご用意いただくと安心です。

● **クレジットカードについて：** Visa、Mastercard などの国際ブランドのカードをお持ちください。暗証番号（PIN）の入力を求められる場合がありますので、出発前に暗証番号をご確認ください。また、念のため異なるブランドのカードを2枚程度に分けてお持ちいただくと安心です。

● **カード利用時の通貨選択について：** カードでのお支払い時に「日本円（JPY）」と「ユーロ（EUR）」のどちらで支払うか 選択を求められる場合があります。日本円建てでは店舗側などが設定する換算レートが適用される場合があるため、通常は「EUR（ユーロ）」を選択してください。

● **現金・カードの管理について：** 現金やクレジットカードは1か所にまとめず、必要な分だけを財布に入れて分散してお持ちください。50 ユーロ札や 100 ユーロ札などの高額紙幣は、小規模な店舗では使いにくい場合があります。

● **チップについて：** オーストリアでは、レストランやカフェなどでサービスに満足した場合、料金の端数を切り上げたり、料金の5～10%程度を目安にチップを渡す習慣があります。カード払いの場合でも、会計時に希望する合計金額を伝える方法が一般的です。※ツアー中のバス、現地ガイド、団体でのお食事に関する基本的なチップは旅行代金に含まれています。



4. 物価とお土産について

■現地の物価目安

オーストリアの物価は日本と比べて全般に高めです。特にウィーンやザルツブルクの旧市街、観光地、山岳観光地のレストランやカフェでは高くなる傾向があります。一方、スーパーマーケットでの飲料や軽食の購入は比較的手頃です。

項目	現地価格（目安）
ミネラルウォーター（スーパー等）	0.50～1.50 ユーロ程度
コーヒー（カフェ）	3.50～6.00 ユーロ程度
ケーキ・トルテ	5.00～9.00 ユーロ程度
ソフトドリンク	3.00～5.00 ユーロ程度
ビール（レストラン・カフェ）	4.00～7.00 ユーロ程度
グラスワイン	4.00～8.00 ユーロ程度
サンドイッチ・軽食	5.00～12.00 ユーロ程度
カジュアルなレストランでの食事	15.00～30.00 ユーロ程度～
モーツァルトクーゲル・チョコレート類	数ユーロ～20 ユーロ程度～

※上記は一般的な目安です。店舗、地域、商品の大きさや内容によって価格は異なります。特にウィーン、ザルツブルクなどの観光地や山岳地帯の展望台・観光施設では高めになる場合があります。また、為替相場によって日本円での負担額も変わります。

● **レストランやカフェの料金について：** メニューに表示されている料金には原則として税金が含まれています。レストランやカフェでは、サービスに満足した場合、会計時に料金の端数を切り上げたり、5～10%程度を目安にチップを加える習慣があります。カード払いの際も、会計時に支払う合計金額を伝える方法が一般的です。

★オーストリアならではのおすすめ名産品＆人気のお土産★

● **ザルツブルク／モーツァルトクーゲル：** ザルツブルクを代表するお菓子が「モーツァルトクーゲル」です。チョコレートの中にマジパン、ピスタチオ、ヌガーなどを使った菓子で、市内各所で様々なメーカーの商品が販売されています。中でも菓子店フルスト（Fürst）の「Original Salzburger Mozartkugel」は、1890年に菓子職人パウル・フルストが考案したオリジナルです。ザルツブルク滞在中のお土産としておすすめです。

● **チロル地方のお土産：** インスブルックをはじめとするチロル地方では、山岳地方らしい蜂蜜、ジャム、ハーブ製品、チーズなどの食品のほか、ローデン生地を使った衣類や小物、木工品などがあります。チロル地方の伝統的なデザインを取り入れた雑貨類は、食品以外のお土産としてもおすすめです。

● **ヴァッハウ渓谷のお土産：** ドナウ河沿いのヴァッハウ地方はアンズ（アプリコット／Marille）の産地として知られています。アンズを使ったジャム、菓子、ジュース、リキュールなどが代表的です。また、ヴァッハウはオーストリアを代表するワイン産地のひとつで、白ワインなども販売されています。

● **ウィーンのお土産：** ウィーンではチョコレートやウエハースなどの菓子類、コーヒー、紅茶などがお土産として持ち帰りやすくおすすめです。スーパーや専門店では、オーストリアの代表的な菓子メーカーの商品も豊富に揃っています。また、ウィーンらしい美術館・音楽・クリムトなどをモチーフにした文房具や雑貨類も人気があります。

● **スーパーマーケットもおすすめです：** ウィーンやザルツブルクなどでは、スーパーでチョコレート、ウエハース、コーヒー、ジャム、ハーブティーなどを比較的手頃な価格で購入できます。個包装された商品も多いため、職場やご家族へのお土産をまとめて購入する際にも便利です。

■お買い物と日本への持ち帰りに関する注意点

● **ワイン・リキュール・ジャムなど：** 容器が100mlを超える液体・ペースト状の商品は、国際線の保安検査を通過して客室へ手荷物として持ち込むことができません。街中で購入した商品は、ふたをテープなどで固定し、密閉袋や緩衝材で包んだうえで、基本的にスーツケースなどの預け入れ荷物に収納してください。瓶製品は破損や液漏れにもご注意ください。

● **生ハム・ソーセージなどの肉製品：** チロル地方では「チロラー・シュベック」などのハム、ベーコン、ソーセージ類が名産ですが、肉製品は日本の動物検疫の対象となります。市販品、真空包装品、加熱された商品でも原則として規制の対象となりますので、お土産として日本へ持ち帰らないようにしてください。

● **チーズについて：** チーズなどの乳製品は、旅行者が手荷物や預け入れ荷物として日本へ持ち帰る携帯品については、原則として動物検疫の対象外です。購入する場合は市販の密封包装品を選び、賞味期限、保存温度などをご確認ください。長時間の常温保存による品質低下にもご注意ください。

● **チョコレート・菓子・コーヒーなど：** お土産として持ち帰りやすい商品です。車内やスーツケース内の高温にご注意ください。

● **お買い物時間について：** 本コースでは、6日目のザルツブルクで午後自由行動、10日目のウィーンで終日自由行動がありますので、まとまったお買い物はこの時間をご利用いただけます。このほか、インスブルック、ハルシュタット、バート・イシュル、デュルンシュタインなど各地の散策時間にも、地元の食品や雑貨をご覧いただける機会があります。

5.ウィーンのスマートな移動と防犯の心得

1. 地下鉄・トラム：改札のない「信用乗車方式」

- **打刻が必須**：ウィーンには改札がありません。紙の切符や回数券を使う場合は、駅の入り口や車内にある「青い打刻機」に必ず差し込んで時間を印字してください。※印字がないと罰金の対象になります。
- **スマホ決済**：「WienMobil」アプリでデジタルチケットを買えば、打刻不要で最もスムーズです。
- **24時間券・7日券**：観光で公共交通機関を利用する日数に合わせて選べます。24時間券は指定した開始時刻から24時間、7日券は指定した開始日から7日間有効です。

2. 「偽モーツァルト」とチケット詐欺にご注意

- **赤い衣装の男たち**：国立歌劇場周辺などで、中世の衣装を着て演奏会のチケットを売っている人がいます。これらは「質の低い演奏会」を高額で売りつけるケースが多く、正規の公演ではありません。
- **対策**：音楽を楽しみたいなら、劇場の公式サイトやホテルのコンシェルジュを通じて正規のチケットを購入しましょう。街頭での勧誘は「No, thank you」でOKです。

3. 街歩きのエチケット

- **検札官に注意**：私服の検札官が抜き打ちでチケットを確認に来ます。有効なチケットを持っていないと、その場で高額な罰金（約100ユーロ以上）を徴収されます。
- **日曜日の閉店**：ウィーンのショップやスーパーは、日曜日と祝日は完全に閉まります。土曜日までに飲み物などは確保しておきましょう。